

# 目次

- Contents -
- 組織概要と対象範囲
- 2 ご挨拶
- 3 これまでの取組
- 4 環境経営方針
- 5 実施体制
- 環境経営目標と実績・評価
- 7 環境経営計画の取組・評価
- 8 その他活動
- 9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無
- 1 () 代表者による全体評価と見直しの結果
- ↑ 次年度の環境経営目標と環境経営計画

# 組織概要と対象範囲 - Corporate profile -

事業所名	株式会社 出雲東郷電機
代表者名	代表取締役社長前田和雄
所在地	島根県出雲市西林木町626-1
環境管理責任者及び担当者連絡先	環境管理責任者:山﨑 晃一 担 当 者:大村 美恵子 TEL 0853-23-1811 FAX 0853-24-8121
事業規模(2022年3月31日現在)	製品出荷額:9億5200万円 社 員 数:123名
事業活動の内容	産業用制御機器(検出スイッチ、 操作スイッチ、センサ)の製造
事業年度	4月~翌年3月
認証・登録の対象範囲	当社で行う全活動、全組織



地球温暖化、廃棄物の増加、資源エネルギーの 枯渇など、環境問題は深刻化しています。

環境保全と企業活動の両立は、企業の果たすべき重要な役割であり、当社は、創業の2014年にエコアクション21を取得するとともに、2014年以降、環境負荷軽減の取り組みを進めています。

これまで、本業での作業効率改善による省エネ、品質改善による廃棄物量の 削減、全社員への意識醸成を図りながらの電灯・空調の省エネや廃棄物の3R の取り組み、省エネ仕様の電灯・空調等の機器への更新などを進めてきました。

また、2020年4月からは、NTTアノードエナジー様のオンサイト型電力供給が稼働し、当社へのグリーン電力の供給が開始されました。これにより、当社のグリーン電力化率は39%となるとともに、二酸化炭素排出量は、前述の取り組み成果も合わせて、2021年度は、2014年度比で、52%削減することができました。

当社は、持続可能な社会の構築に向け、環境保全と企業活動の両立への更なる挑戦を続けていきます。

株式会社 出雲東郷電機 代表取纬役社長 前田 和雄

# 2014年度(創業)~2021年度の取り組み・成果

#### <二酸化炭素排出量の削減>

2014年度~継続:照明の間引き、未使用時の照明の電源OFF、空調機の省エネ運転徹底

2016年度:外灯の点灯時間短縮

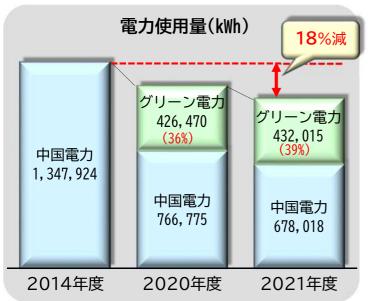
2017年度:コンプレッサー4号機の更新と自動運転プログラム変更

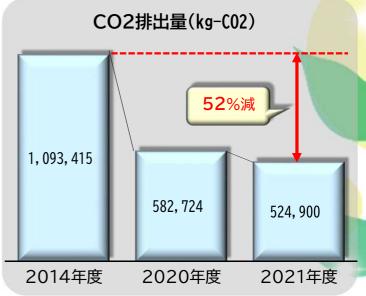
2018年度:物流棟1階・食堂棟の空調機を省エネタイプへ更新、水銀灯を全てLED化

2019年度:食堂棟・連絡通路の空調機を省エネタイプへ更新

2020年度:太陽光発電電力の利用開始、1号館空調機を省エネタイプへ更新

2021年度:3号館照明のLED化





# <廃棄物排出量の削減>

2014年度~継続:

分別の徹底、再資源化の推進、

設備改善・品質改善による廃棄量削減

2019年度:段ボール納入からオリコンへ変更



# <水使用量の削減>

2014年度~継続:節水の徹底

2018年度:食堂トイレを節水タイプへ更新

2020年度:1号館・3号館のトイレを

節水タイプへ更新

2021年度:2号館トイレを節水タイプへ更新



# 基本理念

当社は、環境問題の保全が企業活動における重要課題と認識し、当社が環境に与える影響を社員一人一人が自主的に、継続的に低減するための環境活動に取組み、自然環境との調和と地域社会との共生を目指します。

# 方 針

- 1. 環境保全活動として、次の事を重点課題として取組みます。
  - (1) 二酸化炭素排出量削減のため、電力・化石燃料等のエネルギーの有効利用と、 太陽光などの自然エネルギーの効果的利用を進めます。
  - (2) 循環型社会形成のため、廃棄物の削減とリサイクルの推進に取組みます。
  - (3)限りある資源の有効活用のため、生産効率向上と不良率削減に取組みます。
- 2. 環境経営目標を設定し、定期的にその効果を評価し、必要に応じて見直しを行うと共に継続的改善に取組みます。
- 3.環境関連の法規制を遵守します。
- 4. 地域社会との調和を目指して社会貢献活動の推進を行います。
- 5. 環境への取組みを環境経営レポートにまとめ公表いたします。

制定日 2014年 4月 1日

改定日 2021年 4月 1日

株式会社 出雲東郷電機

代表取締役社長 前田 和雄

①社長 2018年11月30日制定 2021年04月08日改定 ②工場長 ③環境管理責任者 4)環境事務局 ⑤第二製造課 ⑤総務課 ⑤品質保証課 ⑤第一製造課 ⑤生産技術課 ⑤物流課 部門長 部門長 部門長 部門長 部門長 部門長 ⑥品質保証課 ⑥第一製造課 ⑥第二製造課 ⑥生產技術課 ⑥総務課 ⑥物流課 環境推進委員 環境推進委員 環境推進委員 環境推進委員 環境推進委員 環境推進委員 ⑦品質保証課 ⑦第一製造課 ⑦第二製造課 ⑦生産技術課 ⑦総務課 ⑦物流課 課員 課員 課員 課員 課員 課員

#### 役割

#### ①社長

- ◆環境経営に関する統括
- ◆環境経営システムの実施及び管理に必要 な資源の準備
- ◆環境経営実施体制の構築
- ◆環境管理責任者の任命
- ◆経営における課題とチャンスの明確化
- ◆環境経営方針の策定・見直し
- ◆環境経営システムの評価と見直し

#### ②工場長

◆社長不在時の代行

#### ③環境管理責任者

- ◆環境経営システムの構築と運用管理
- ◆環境推進委員会の委員長
- ◆環境活動の取組結果の社長への報告
- ◆更新・中間審査の審査結果を社長へ報告

#### ④環境事務局

- ◆環境管理責任者の補佐
- ◆環境経営システムに関する事
- ◆環境監視数値の集計
- ◆環境関連の外部コミュニケーションの 窓口
- ◆内部環境監査の実施準備

#### ⑤各課部門長

- ◆自部門における環境経営システムの実施
- ◆自部門に関連する環境経営計画の実施・ 達成状況の認可
- ◆自部門に関連する問題点の発見、是正、 予防処置

#### ⑥各課環境推進委員

- ◆自部門の環境経営計画を課内で推進
- ◆自部門の環境経営実績を記録し<mark>部門長へ</mark> 報告
- ◆内部環境監査の実施(内部監査員)

#### ⑦各課課員(全社員)

◆自主的かつ積極的な環境活動への参加

#### 【補足】

※ 環境関連文書類の責任・権限については、環境関連文書管理規程に従う

	2020年度	2021年度			2022年度 2023年度	2023年度	
項目名	実績数値	計画	実績	計画と 実績の差	目標	目標	評価
1.二酸化炭素 排出量の削減 (※1)(※2)	582.7 t-	577.7 co 2	524.9 t-	▲52.8 <sup>t-</sup> 削減率 9%	519.9 t-	491.5 <sup>t-</sup> <sub>CO2</sub>	空調機の更新や LED化により 電力・ガスの使 用が減った事、
l-① 電気使用量の削減	119.3 万 kwh	万 118.1 kw h	111.0 万 kwh	▲7.1 万kwh	109.7 万 kWh	107.2 万 kWh	7月・8月の夏 場に昨年よりる 陽光発電電力を 多く利用できた ことにより、二
1-② 化石燃料使用量の 削減 (液化石油ガス[LPG])	15, 122.2 m	15, 122. 2 m²	14,935.4 m	<b>▲</b> 186.8 m	14, 935. 4 m	11,935.4 m	酸化炭素排出量を大きく削減する事ができました。
2. 廃棄物排出量の 削減	35, 401. 2 kg	38,054.1 kg	35, 612. 4 kg	▲2,441.7 kg	35, 612. 4 kg	35, 612. 4 kg	オリコン不足に より段ボールで の入荷が増えた
2-① 一般廃棄物排出量 削減	20, 995. 0 kg	22, 496. 4 kg	23, 075. 0 kg	578.6 kg	23, 075. 0 kg	23, 075. 0 kg	事で、一般廃棄 物の排出量が多 くなりましたが、 3 Rの取り組み の雑誌と、昨日
2-② 産業廃棄物排出量削減	14, 406. 2 kg	15,557.7 kg	12,537.4 kg	▲3,020.3 kg 削減率 19%	12,537.4 kg	12,537.4 kg	度同様の生産量 低迷により目標 達成できました。
3. 水使用量の削減 【水道水と井水の使用 量削減】	1,883.5 m	1,695.2 m	1,228.0 m	▲467.2 m 削減率 28%	1,228.0 m	1,228.0 m	トイレを節水タ イプに変更した 効果が予想以上 にあり、目標値 以上の削減とな りました。
4. 化学物質使用量 の把握 「PRTR制度に該当 する第一種指定化学 物質の使用量を把握】	7.6 kg	別に定める化 学物質管理規 定によって適 正管理を行う	16.1 kg	-	別に気 化学物質管理 適正管理	規定によって	化学物質管理規 定に沿って適正 な管理ができま した。使用量の 大幅な変化はあ りませんでした。
5. 自らが生産・販売 ・提供する製品の 環境性能の向上及 びサービスの改善 【廃製品・廃部品の排 出量削減】	0.62 /月 ※2	0.43 /g 021年度改善交	0.92 <sup>kg</sup> 対象の値	0.49 / <sup>kg</sup>	製造部 年度毎に改 決めて¶	女善対象を	品質改善による廃棄物量の削減、設備改善・品質改善により廃量は減少しまりを発達しまが、申標達成には至りませんでした。

(※1)二酸化炭素排出量にはガソリン使用量を含むが<mark>、二酸化炭素</mark>排出量<mark>の</mark>0.2<mark>%と少量の為、環境経営目標は未設定</mark>(※2)購入電力の二酸化炭素排出係数については、<mark>2018年度中</mark>国電<mark>力調整後排出係数「0.636kg-C02/kWh」を使用</mark>

#### └酸化炭素排出量の削減 No.1

# 二酸化炭素排出量推移 [単位:t-co2]



2020年度からの太陽光発電 電力の利用や、空調機の省エネ タイプへの更新、照明のLED 化により、実績は2014年度 比で約52%の削減となりまし た。

#### $N_{0.1} - (1)$ 電気使用量の削減

#### 電力使用量推移 「単位:万kWh]



#### ◆ 1号館・3号館の生産エリア照明を LED化

- ◆ 不要な電気のこまめな消灯
- ◆ 空調の適正温度管理

環境経営計画

取組内容

環境経営計画

評価

# ◆3号館生産エリアの照明をLED化 ◆1号館照明のLED化は、手元灯の

削減に繋がる天井照明の配置・輝度 の検討に時間を要すため見送り、代 わりに2号館ロビー・応接室の照明 をLED化しました。

- ◆計画外で3号館の空調機(室内機 32台)と物流棟2階の一部空調機 (室内機3台)を最新モデルへ更新し ました。
- ◆不要な電気のこまめな消灯、空調の 適正温度管理等、継続的活動も引き 続き実施しました。

#### 化石燃料使用量の削減 $N_{0.1}$ -(2)

#### 「単位:㎡] LPガス使用量推移



#### ◆ 空調の適正温度管理

- ◆引き続き空調の適正温度管理を行い ました。
- ◆2020年度に実施した1号館の空 調更新でガス空調が室内機38台⇒ 47台に増加しましたが、最新モデ ルへ更新た事で、年間ガス使用量は 2020年度並みに抑える事が出来 ました。







# 空調機更新

空調機の老朽化に伴い、計画的に空調機の更新を進めています。

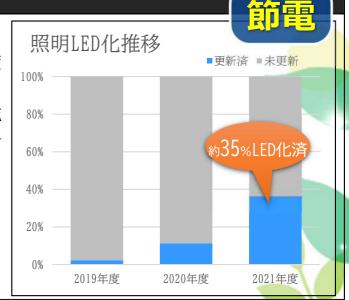
2021年度は室内機で35台分(全体の20%)を省エネタイプへ更新しました。 この4年で当社の空調機を設置しているエリアの約70%の更新が完了しました。今後も順次 更新を進めていきます。



### 照明のLED化

2014年度(創業時)時点で、約1,800台 あった蛍光灯照明のLED化を、2020年度 以降、エリア毎に進めています。

2021年度は、約400台のLED化を実施 し、全体の約35%がLED化できました。今 後も順次更新を進めていきます。



# トイレ改修

2号館のトイレ改修に伴い、流水量が約70%削減できる節水タイプのトイレに更新をしました。これで、構内6箇所の全てのトイレが節水タイプになりました。







# 永年継続表彰

2021年8月、エコアクション21中央事務局より、永<mark>年活動表彰として感謝状を</mark>頂きました。今後も社員全員で環境保全に取り組んでいきます。





### 清掃活動

2021年5月、会社周辺道路のゴミ拾いを実施しました。活動を通じて環境保全への意識を向上する事が出来ました。





# エコキャップ回収

2017年11月から取り組んでいるエコキャップ活動は、活動が定着をし、累計で233kg-co2の二酸化炭素排出量を削減しました。





適用される法規制	適用される事項【施設・物質・事業活動】	遵守状況
水質汚濁防止法 【法第14条の2】	・貯油施設、危険物等の事故時の <mark>処置と届出</mark>	<mark>該</mark> 当なし
浄化槽法 【法第5、10、11条】	・浄化槽の保守点検、清掃、排出水水質検査	0
フロン類の使用の合理化及び管理の 適正化に関する法 【法第14条、16条第1項】	• 7. 5 kW未満は簡易点検を3ヶ月に1回以上実施する • 7. 5 kW以上50 kW未満のエアコンは簡易点検を3ヶ月 に1回以上実施し、3年に1回以上業者にて定期点検	0
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 【法第6条の2、法12条の2、3、 5、12条】	・保管基準の遵守、委託基準の遵守、 電子マニュフェス トの交付	0
出雲市火災予防条例 【条例第31条】	• 危険物保管量の管理	0
家電リサイクル法 【法第6条】	・家電リサイクル法による適正廃棄	0
自動車リサイクル法 【法第8条】	• 使用済み自動車の適正廃棄	0

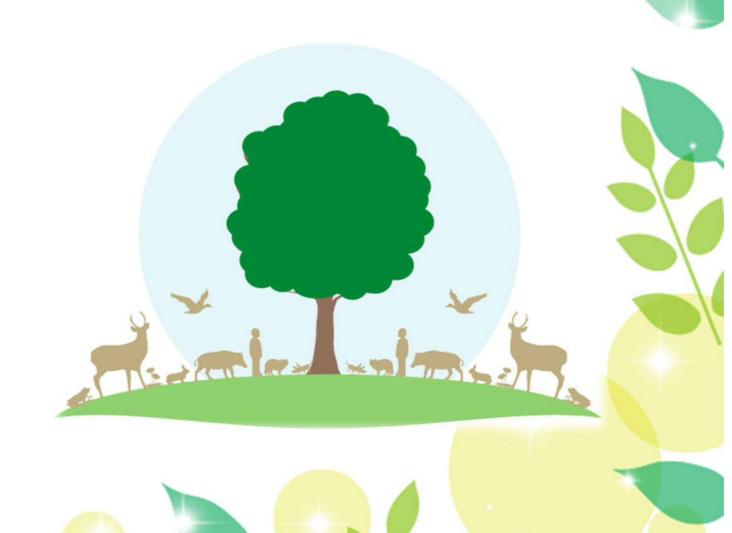
# 違反等の遵守状況の評価

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。 【2022年2月16日確認】

また、創業以来8年間にわたって保健所等関連機関からの違反の指摘及び、 地域住民等の利害関係者からの訴訟はありませんでした。 生産活動が企業主体である当社においては、作業効率改善や不良率 削減に取り組む事が必須です。それらの取り組みが、省エネや廃棄 物量削減等の環境保全活動に繋がります。

引き続き改善活動等を通じて、生産性向上及び不良率改善を進め、 環境負荷削減に取り組んでいきましょう。

環境取り組みに対する企業の社会的責任・役割も増加しています。 当社においては、省エネ設備への更新(空調・照明LEDなど)、 太陽光発電の活用なども含めた取り組みを進めていますが、環境負荷削減・地球環境の保全に向けた更なる取り組みを、継続して検 討・実施していきましょう。



	2021年度	2022年度		2022年時				
項目名	実績数値	増減率	目標数値	2022年度 環境経営計画				
1.二酸化炭素 排出量の削減	524.9 t-c02	<b>▲</b> 1.0 %	519.9 t-c02	【今期取組】 ・2号館1階空調機を省エネタイプへ更新				
1-① 電気使用量の削減	111.0 万kwh	<b>▲</b> 1.2 %	109.7 万kWh	・1号館の照明をLED化 【継続的活動】 ・未使用時の照明・ディスプレイの電源OFFなど、 節電対応の継続				
1-② 化石燃料使用量の 削減 (液化石油ガス[LPG])	14,935.4 m	前年度 実績維持	14,935.4 m	・空調機の省エネ運転の継続				
2. 廃棄物排出量の 削減	35,612.4 kg	前年度 実績維持	35,612.4 kg					
2-① 一般廃棄物排出量 削減	23,075.0 kg	前年度 実績維持	23,075.0 kg	【継続的活動】 ・廃棄物分別徹底の継続				
2-② 産業廃棄物排出量 削減	12,537.4 kg	前年度 実績維持	12,537.4 kg					
3. 水使用量の削減 【水道水と井水の 使用量削減】	1,228.0 m²	前年度 実績維持	1,288.0 m²	【継続的活動】 ・手洗い等での節水対応の継続				
4. 化学物質使用量の 把握 【PRTR制度に該当する 第一種指定化学物質の 使用量を把握】	16.1 kg	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う						
5. 自らが生産・販売 ・提供する製品の 環境性能の向上及 びサービスの改善 【廃製品・廃部品の排 出量削減】	1.19 %	- 21年度改善対象 ▲5.0 % 22年度改善対象	1.13 %	【今期取組】 ・基本スイッチ生産時の廃棄率削減 <廃棄率=廃棄重量/生産重量>				
その他取り組み		プ運動の継続、さ	け、掲示板での情 5切手回収、	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				

(※1)購入電力の二酸化炭素排出係数については、2018年度中国電<mark>力調</mark>整後排出係数「0.636kg-C02/kwh」を使用

# **IZUMO TOGO** ELECTRONICS Corporation